

令和6年度 病害虫防除技術情報 第2号

令和 6年 7月 8日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

トビイロウンカの防除対策の徹底について

トビイロウンカは、令和元年および2年に、県内各地で坪枯れを多発するなど甚大な被害をもたらしており、本年度も発生に十分注意する必要があります。これまでのところ、苗箱施用として長期残効性のトリフルメゾピリム含有薬剤の普及が進んでいますが、苗箱施薬を実施していない早期水稻において6月18日にトビイロウンカの幼虫が確認されています。早植えの水稻を中心に、苗箱施用剤の残効がなくなる時期にも差し掛かっており、今後の発生が懸念されます。

6月下旬には西九州各県においてトビイロウンカが確認されており、本県のベトナム式予察灯（豊後大野市三重町）においても、7月2～3日に初飛来が確認されています。ウンカ類飛来状況データ検索（（一社）日本植物防疫協会）によれば6月22～28日にかけて本県への飛来が予測されていました。最も飛来が多いと予測される6月25日を起点とし有効積算温度を元に防除適期を予測しましたので、今後の防除対策の参考にしてください。

1 トビイロウンカ防除適期の予測

表1 予測されるトビイロウンカの防除適期(6月25日飛来)

地点	防除適期 (第一世代幼虫)		防除適期 (第二世代幼虫)		第三世代幼虫(参考)
国見	7/14 ~	7/26	8/11 ~	8/23	9/11 ~
中津	7/14 ~	7/26	8/11 ~	8/23	9/11 ~
豊後高田	7/14 ~	7/26	8/11 ~	8/23	9/11 ~
院内	7/14 ~	7/27	8/14 ~	8/27	9/17
杵築	7/15 ~	7/28	8/15 ~	8/28	9/17
武蔵	7/17 ~	7/30	8/17 ~	8/30	9/20
日田	7/13 ~	7/25	8/10 ~	8/22	9/10 ~
玖珠	7/15 ~	7/28	8/15 ~	8/28	9/19
湯布院	7/16 ~	7/30	8/19 ~	9/3	
大分	7/13 ~	7/25	8/10 ~	8/22	9/10 ~
犬飼	7/14 ~	7/27	8/13 ~	8/26	9/15
竹田	7/14 ~	7/27	8/14 ~	8/27	9/18
佐伯	7/14 ~	7/27	8/13 ~	8/25	9/13 ~
宇目	7/14 ~	7/27	8/14 ~	8/27	9/18
蒲江	7/15 ~	7/28	8/14 ~	8/26	9/14 ~

※1 飛来予測日(6月25日)は、JPP-NET病害虫発生予測データベースーウンカ飛来予測システム(トビイロウンカ、(一社)日本植物防疫協会)及び気象再解析データを元に解析した。

※2 発育ステージに基づくトビイロウンカの防除適期は、飛来予測日(6月25日)を起点として、JPP-NET病害虫発生予測データベースー有効積算温度計算シミュレーションver.2及び各地点のアメダスデータ平均気温(7月4日までは本年度実測値、7月5日以降は平年値)を元に予測した。なお、予測の際に用いた有効積算温度及び発育下限温度は、表2を根拠とした。

表2 有効積算温度及び発育下限温度

ステージ	有効積算温度(日度)	発育下限温度(°C)
成虫	125	12.0
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

表3 トビイロウンカの発生時期別要防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月上旬 ~ 8月上旬	2頭/10株 (0.2頭/株)
8月中旬 ~ 8月下旬	10頭/10株 (1頭/株)

2 予察灯におけるウンカ類の発生状況

(1) トビイロウンカ

7月2～3日にベトナム式予察灯にて1頭を誘殺。

(2) セジロウンカ

6月19日にベトナム式予察灯にて誘殺。

6月30日に白熱球予察灯にて誘殺。

3 現地巡回調査におけるウンカ類の発生状況

(1) 6月12～18日

トビイロウンカは、早期水稻調査10圃場中1圃場で、発生が確認された。

一方、普通期水稻調査40圃場のうち調査可能な8圃場では、発生が確認されなかった。

なお、セジロウンカは、早期水稻3圃場及び普通期水稻1圃場で確認された。

4 防除上の注意事項

- (1) 薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

